

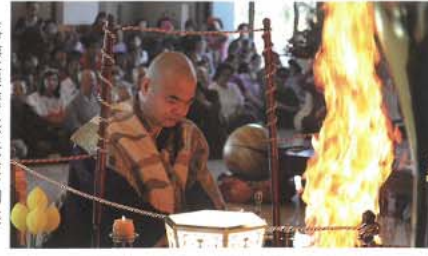
台湾 青龍山 不動寺 新本堂落慶法要厳修

法務課 桑名 善光

去る平成三十年十一月十三日晴天の中、台湾の「青龍山不動寺」にて、高尾山薬王院山主名代飯沢秀三執事御導師のもと、高尾山法縁寺院諸大徳の皆様に職業を賜り、「新本堂落慶法要」に併せた「山門両仏開眼」・「新薬師堂（旧本堂）開眼」が盛大に執り行われた。配役は次の通りである。

配役

- 導師 高尾山主名代
- 執事 飯沢秀三僧正
- 一 脇 寶積寺
- 二 脇 松本隆世僧正
- 三 脇 兎川霊瑞寺
- 四 脇 細萱仙秀僧正
- 五 脇 寶蓮院
- 六 脇 岩田功二僧正
- 七 脇 川福寺
- 八 脇 西川照順僧正
- 九 脇 金南寺
- 十 脇 上村秀如僧正
- 十一 脇 普門寺
- 十二 脇 建部良昭僧正
- 十三 脇 常楽寺
- 十四 脇 引金先導 谷口順和僧正
- 十五 脇 海住山寺
- 十六 脇 佐脇貞憲僧正
- 十七 脇 高尾山教務部長
- 十八 脇 高尾山法務課長
- 十九 脇 佐藤秀仁僧正
- 二十 脇 高尾山法務課長
- 二十一 脇 桑名善光僧都
- 二十二 脇 太鼓・立螺
- 二十三 脇 桑名善光僧都
- 二十四 脇 記録係 保立 洋文



落慶護摩供法要勤修

当日は晴天で気温が三十度近い中での法要となった。

朝七時半に宿を出発し、九時過ぎに不動寺到着。十一時の法要予定だったが、法要場所の確認等をしていくと、先方から九時半より法要を始めてほしいとの要望があり、急いで準備をして信徒会館裏口より引金・法螺師を先頭に山門に向かった。

山門正面に到着後、導師の酒水を合図に山門両脇の仏像の除幕が行われ、「山門両仏像開眼法要」を勤修。その後、開扉され新本堂へ向かった。

参道を進むと、新本堂手前には、真紅のテープが張られており、その前で職業一同足を止めて横一列に整列。不動寺関係者、導師及び職業数名によりテープカットが行われ、その後、新本堂前に移動し「新本堂開扉法要」を勤修。法螺一声と共に新本堂の扉が開扉され、職業一同入堂となった。



釋見明和尚(右より三人目)と共にテープカットが行われた

新本堂内では「新本堂落慶護摩供法要」を勤修。不動寺関係者、檀信徒と共に落慶を祝った。法要終了後、堂内にて導師及び一脇二脇により信徒加持が行われ、終了後退堂。

へと向い、堂内にて「開眼法要」が執り行われ、終了後退堂。隊列を組み信徒会館に戻り衣帯を解いた後、お斎となった。導師より祝辞を述べ、関係者と共に薬膳料理を頂き法要の無魔勤修を祝った。

台湾青龍山 不動寺新本堂落慶法要表白

謹み敬つて真言教主並びに青龍山不動寺本尊大日如来・両部界会諸尊聖衆、殊には真言高祖弘法大師・中興興教大師、総じては虚空法界一切三宝の境界に白して言うさく。

夫れ青龍山不動寺と者、今を遡る民国六十年、釋惟勵和尚・見明和尚と共に台湾高雄の寺院にて仏道の深奥を極めんと密教求法の為、日本国に鋤を飛ばし高野山高尾山の門を叩き、両部灌頂の密儀を授かる。然り而して民国七十四年、不動寺境内地に飯繩大権現堂を建立し、日本国高尾山薬王院前貫首山本秀順大僧正導師の下、開眼法要火渡り祭を厳修す。民国七十六年には、日本国川崎大師平間寺前貫首高橋隆天大僧正を御導師に仰ぎ不動寺本堂落慶法要を厳修致したり。民国百二十年十月二十一日には、釋惟勵和尚發願による多寶佛塔が見事に完成し、高尾山薬王院貫首大山隆玄大僧正導師により落慶法要を厳修せられたり。

爾来、聖地開拓より今日に至るまで、信心堅固の参詣信徒合い集い、法灯絶ゆることなし。加之釋惟勵和尚愛山護法寺門興隆の念極めて篤く、更に新本堂建立を發願せられたり。尊崇する住職に檀信徒は一九となり、淨財を運び忽ちにして蔵は満ち、工事無慮円成す。小衲、本日新本堂落慶法要の盛儀に当たり、導師の首座に登り仰ぎ願わくは不動寺本尊大日如来を始め奉り、部類眷属来臨影向し勝益を施し給え。伏して請う

伽藍安穩 仏法興隆 寺運隆昌 檀徒安全 乃至法界 平等利益
惟時 民国百七年十一月十三日

日本国 大本山高尾山薬王院 中興第三十二世貫首 隆玄 敬白



参列された不動寺関係者・檀信徒と共に新本堂落慶を祝い記念撮影



表白を奉読する飯沢執事